

【令和7年度全国統一防火標語】  
「急ぐ日も 足止め火を止め 準備よし」

## 幼年消防クラブ退団式・防火豆まき



岩城保育所 2/2



生名保育所 2/3



弓削保育所 2/4



上島町内の各保育所において、幼年消防クラブ退団式を行いました。  
退団式では、卒園する年長さんに消防本部から感謝状を授与し、「今後も防火・防災の心を忘れないでください」とお願いしました。その後、園児全員で防火豆まきを行い、火遊びをする悪い鬼を退治しました。最後に、心を入れ替えた鬼と記念撮影をして幼年消防クラブ退団式を終了しました。



岩城



生名



弓削

## 弓削小学校3年生消防署見学！

- 1 放水体験 2 救急車見学
- 3 水の入ったホースの重さを体験 4 放水体験

1月15日、弓削小学校3年生が社会科見学のため消防署を訪れました。  
救急車や消防車を見学し、火事の際に着ていく防火服の装着体験や、消防ホースを伸ばしたり水の入ったホースを持ったりし、最後は放水体験を行いました。見学や体験をしている時の子供たちのワクワクした表情が印象的でした。



1



2



3



4

### 令和8年1月出動件数 (令和8年1月31日現在)

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R8累計
火災	0	0	0	0	0	0	0
救急	18	9	5	1	0	33	33

【上島町消防署】 ☎ 77-4118  
【上島町消防本部消防防災課】 ☎ 77-3166

上島町を守る誇りとなる！消防団員絶賛募集中！

### 救急車の適正利用についてお願い

#### 【体調不良時は早期医療機関受診をお願いします】

体調に異変を感じたとき、「もう少し様子を見よう」と我慢してしまう方も少なくありません。しかし、朝から体調不良を我慢し続けることで症状が悪化し、診療時間を過ぎてから救急車を呼ばざるを得なくなるケースがあります。

体調がすぐれないと感じた場合は、無理をせず早めに医療機関の診療時間内受診をすることが大切です。

ご自身の健康を守り、救急車の適正利用により地域の医療を支えるため、ご理解とご協力をお願いします。



農業は自然環境への依存度が高い産業といわれ、果樹類は気候の適応性が低い作物です。このことは、水稲は日本全国で栽培されていますが、果樹栽培は北のリンゴ、南のカンキツのように気候により栽培地が偏っていることからわかります。今回は、カンキツ栽培における気象変動(温暖化)の影響について解説します。

### 1 カンキツ栽培と気象

温州みかんの栽培適温は年平均15℃～18℃といわれ、北限は南関東沿岸(千葉県あたり)から西日本沿岸(瀬戸内・太平洋)に産地が形成され、上島町は瀬戸内海沿岸の適地に含まれます。  
植物の生育に関わる環境要因は、気温、降水、日射、土壌などがありますが、果樹の生育には気

### 2 最近の気温変化の傾向

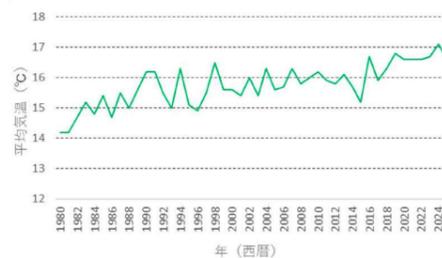


図1 年平均気温の推移 (広島県生口島気象庁観測値)

温の影響が最も大きいといわれています。  
1年生作物の水稲や野菜は、植付け時期を変えて適温期間に栽培期間をずらすことができますが、果樹類は気温の変化に対応した作期(生育)の人的な調整ができません。  
広島県生口島の1980年から45年間の年平均気温(気象庁アメダス値)の変化を図1に示しました。ざっくり見て45年間で平均気温は2℃程度上昇しています。このまま上昇し続けると50年後には温州みかんの栽培に適さない気温になるのではないかと心配されます。

### 3 温暖化とカンキツ栽培への影響

カンキツ栽培での温暖化の影響は、栽培が難しくなるような顕著な症状ではありませんが、夏の高温の影響による日焼け果の増加、隔年結果(着果の表年と裏年)の増減の拡大、着色遅れ、糖度の低下なども気温の影響が大きいと思わ

温暖化と言われて久しいですが、記録からも確実に気温は上昇しています。特に、ここ数年は夏の気温上昇が著しくカンキツ類にとっても人にとっても厳しい夏になっていきます。広島県生口島の過去45年間の年最高気温と最低気温を図2に示しました。最高気温(上グラフ)は25年前までは35℃を越える年は稀(まれ)でしたが、最近10年は当たり前になり人の体温を越える36℃以上を記録する年も珍しくありません。一方、最低気温は最高気温に比べ上昇傾向が緩やかです。25年以前は数年おきにマイナス5℃を越える低温によりレモン等に寒害が発生していました。近年は一時的に極温がマイナス4℃程度まで下がりますが、寒害の発生は少なく、冬に水が張ることもめったに見えないなど暖冬年が多くなっています。

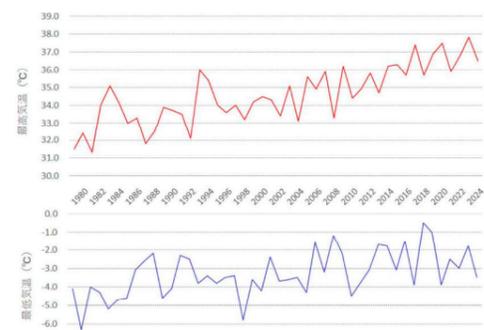


図2 年最高気温と年最低気温の推移 (広島県生口島気象庁観測値)

れます。また、カンキツ害虫のカイガラムシ類は気温変化で生育するため、気温の上昇で成長速度が速まり農業の散布適期が防除暦とずれ、年間に2回しか卵を産まない種が3回目を産卵することも考えられます。南方系の害虫(例えばミカンコミバエ、ミカンキジラミ(果実の移動制限となる侵入警戒害虫等))の分布域の北上も心配されます。落葉果樹類(ウメ、モモ)では暖冬により花芽ができて花が咲かないといった事例も発生しています。  
カンキツ類では、まだ深刻な影響は出ていませんが、上島町で温州みかんが栽培しにくくなる時代が訪れるかもしれません。